

## 《研究課題名》

裂孔原性網膜剥離における黄斑剥離のリスクファクターの解析

## 《研究対象者》

「日本網膜硝子体学会における網膜硝子体手術・治療情報データベース事業」に登録されている全国の患者さんのうち、2016年2月から2017年3月の間に、裂孔原性網膜剥離に対して手術を受け、半年以上経過観察が行われている方を対象とします。

## 研究協力をお願い

滋賀医科大学において上記研究課題名の研究を行います。日本網膜硝子体学会における「網膜硝子体手術・治療情報データベース事業」に登録された情報を用いて行う研究であり、研究目的や研究方法は以下の通りです。試料・情報の使用について、直接ご説明して同意はいただきず、このお知らせをもって説明に代えさせていただきます。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

なお、本研究に関するご質問は下記（４）の問い合わせ先へご連絡ください。

### （１）研究の概要について

《研究課題名》 裂孔原性網膜剥離における黄斑剥離のリスクファクターの解析

《研究期間》 滋賀医科大学学長許可日～2023年3月31日

《研究責任者》 滋賀医科大学 眼科 柿木雅志

### （２）研究の意義、目的について

#### 《意義》

裂孔原性網膜剥離に対する手術として、レーザー治療や、眼球を外側から内陥して網膜をもとの位置に復位させる網膜復位術（眼外手術）、眼内にアプローチして硝子体を切除し原因裂孔を閉鎖する硝子体手術があります。手術による網膜剥離の治癒率は95%程度と報告されていますが、視力にかかわる黄斑が剥離すると、手術後の視力改善が不良であったり、歪みを残したりする可能性が高くなりますが、予め黄斑剥離をきたす原因がわかっているならば、個々人の経過観察期間や眼科を受診する頻度を検討することができる可能性があります。

#### 《目的》

黄斑剥離をきたす網膜剥離のリスクを明らかにします

### （３）研究の方法について

#### 《研究の内容》

日本網膜硝子体学会における網膜硝子体手術・治療情報データベース事業」に登録されている患者さんの情報（《利用する情報の項目》のとおりです）を用いて、黄斑剥離を認めた群と黄斑剥離を認めなかった群の間で、黄斑剥離のリスクファクター、術前後の視力・眼圧、手術方法の比較、合併症の比較を行います。

本学に提供される情報は匿名化されており、本学ではどの情報がどの患者さんのものか分からない状態です。

日本網膜硝子体学会より提供を受けた患者さんのデータそのものについては、本研究の論文が完成しましたら、学会に返還いたします。

ただし、本研究に関する資料（文書、数値データ、画像など）については、本研究終了後 10 年間、滋賀医科大学眼科学講座にて厳重に管理し、その後適切な方法で廃棄させていただきます。

#### 《利用する試料・情報の項目》

年齢、性別、術前視力、眼圧、左右の別、剥離となる原因疾患、眼手術の有無と手術内容、推定剥離期間、眼軸長、黄斑剥離の有無、黄斑剥離期間、PVR の程度、網膜剥離範囲、手術時に内境界膜剥離の有無、内境界膜剥離時に使用した染色液、タンポナーデ物質、手術時間、術後視力、術後パッカーの発生の有無、手術のゲージ数、白内障手術併用の有無、水晶体の状態（有水晶体・眼内レンズ・後発白内障手術の有無、眼内レンズ縫着術後、眼内レンズ強膜内固定術後、手術方法、タンポナーデ物質の内容、術後合併症の内容

#### 《試料・情報の管理について責任を有する者》

滋賀医科大学眼科学講座 柿木雅志

#### （４）本研究に関する問い合わせ先

担当者：滋賀医科大学 眼科学講座 柿木雅志

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2276

メールアドレス：hqophth@belle.shiga-med.ac.jp